

第 2 1 期 第 1 回 八尾市図書館協議会会議概要

日 時 平成 3 0 年 7 月 2 0 日 (金)
1 4 時 0 0 分 ~ 1 6 時 0 0 分
場 所 八尾市立青少年センター 3 階 集会室

出席者 (敬称略)

松井 純子 (大阪芸術大学教授)
江岡 信行 (八尾市青少年育成連絡協議会)
松井 祥一 (八尾市校長会)
二宮 久子 (八尾市社会教育委員)
清水 大輔 (八尾市 P T A 協議会)
前川 和子 (元大手前大学教授)
仙田 ひろ子 (大阪府立中央図書館 司書部長)
川窪 和子 (大阪市立中央図書館 利用サービス担当課長)
稲垣 房子 (元奈良大学教授)
池田 多瑛 (公募市民委員)
喜多村 洋子 (公募市民委員)

欠席者

西村 一夫 (元松原市民図書館長)

事務局

中山 晶子 (八尾市教育長)
田中 淳二 (生涯学習担当部長)
万代 辰司 (教育総務部次長)
谷 裕之 (八尾図書館長)
松田 勝人 (教育総務部参事)
川端 良昇 (八尾図書館長補佐兼志紀図書館長)
伊藤 均 (山本図書館長)
筒 暁子 (八尾図書館利用サービス係長)
森尾 憲 (八尾図書館資料係長)
松井 浩一 (山本図書館係長)
丸谷 奈緒美 (八尾図書館資料係主査)
小畑 由季 (八尾図書館司書)
竹村 清 (志紀図書館司書)
住本 和美 (龍華図書館長：指定管理者)
岡 告美 (龍華図書館館長補佐：指定管理者)

【 議事概要 】

- 1 教育長挨拶
- 2 委員状の交付及び委員の紹介
- 3 会長・副会長の選出（会長を松井 純子委員、副会長を江岡 信行委員が就任）
- 4 議題

（1）図書館の事業報告について

①「平成 29 年度 図書館事業の報告について」

委員：さまざまな統計データが記載され、資料として充実している。

委員：P10（12）図書館司書実習受入数が少ないと思うが、八尾市としてはどのようなスタンスで受入を行っているのか。

事務局：希望日と業務日程を調整し、可能な限り受け入れる体制を整えている。

委員：P11 以降に多彩な行事があるが、ボランティアグループの位置づけはどうなっているのか。例えば児童サービス部門で活躍されているのか、ボランティアグループに図書館が連絡して行っているのか。

事務局：八尾市では、団体ボランティアの登録が 4 館で 11 団体あり、各図書館と連携しながら行事に取り組んでいる。

委員：P18 予算について、図書館資料充実基金の原資は寄附であったが、その使い道が図書館と学校図書館であったと思うがその認識で間違いないか。

事務局：間違いない。

委員：図書館資料充実基金積立金として積み立てるのは、図書館管理運営経費からだけか。

事務局：がんばれ八尾応援寄付金のうち、図書館資料の充実として寄附をいただいた場合は、基金の積立金に入る。

委員：現在、基金の残金はどれくらいあるか。

事務局：平成 29 年度末現在では、9,800 万円程度である。

委員：平成 29、30 年度の当初予算について、図書館管理運営経費が山本図書館と志紀図書館でかなり差があるが、山本図書館のほうがなぜ、志紀図書館より予算額が少ないのか。

事務局：山本図書館は、山本コミュニティセンターとの複合施設であることから施設の管理経費については、山本コミュニティセンターが予算計上をしている。そのため、山本図書館は、志紀図書館より予算額の計上が少ない。

委員：学校図書館の資料費等については、どういう形で活用されているのか。また、学校図書館の状況を知りたい。学校図書館についての議論はこの場で行うのか、また別の機会があるのか。

事務局：学校図書館については、他部局が所管しており、手元に資料がないため正確な数字は言えないが、学校図書館を充実していこうという国の流れもあり、当初予算は昨年度より増額となっている。今後、子ども読書活動推進計画の改定を議論していく中で、学校図書館の状況についてもご報告してまいりたい。

- 委員：別紙2「年齢別貸出状況調べ」を見ると、幼児、小学生や30代以上の貸出状況は良い。しかし、モバイル等の普及もあり仕方がないのかと思うが、中学生の利用率が低いことについて、どのように考えているのか。
- 事務局：各館でヤングアダルトコーナーの工夫・充実や、ヤングアダルト層を対象とした新たな行事も開催するなど努力している。
- 事務局：国の第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」においても、中・高校生に関する問題提起はされており、幼児期からの読書習慣の継続や定着などを含め、検討してまいりたい。
- 委員：この問題は容易でない、継続して考えていく必要がある。
- 委員：中学生が1人で利用できる時間は17時までであるが、現在の中学生の生活に則した形で見直していただきたい。
- 委員：学校帰りに図書館に寄りたと思う中学生がどれくらいいるのか。仮に多くの中学生が居た場合に学校や教育委員会、図書館としてはどれくらい配慮できるのか。中学生が17時までという利用時間については、どこが判断し、どういう基準で設定しているのか。
- 事務局：これまでの経過を確認させていただき、必要な検討をしてまいりたい。
- 委員：P9「(7) 夜間開館利用状況」とあるが、夜間開館は何時以降か。
- 事務局：ここに示す夜間開館とは17時から19時である。
- 委員：学校図書館の利用はどのような状況か。
- 委員：学校図書館は、休み時間等に本を自主的に借りたり、図書の時間には、授業の一環で全員が読書をするなど、各学校で貸出点数等に違いはあるが、利用頻度は高い。
- 委員：図書館では中学生をあまり見かけないが、学校図書館を活用しているならいいのではないか。
- 委員：先ほどの話は小学校の話なので、中学校での状況を確認する必要がある。
- 委員：小学校と図書館との関わりはいろいろあるが、中学校と図書館との関わりを教えていただきたい。他市では中学校は、図書室をあまり開室していないと聞くので、子どもの読書活動を進めて行くなれば、図書館から踏み込んで連携し合うことが必要である。
- 別紙2の幼児、小学生までの利用が多いのは、親と一緒に来る等の理由により30代以降の数値との関係性も見えてくる。
- 中学校の図書室も、貸出時にどんな本を読んでいるか分からないような工夫をするなど、思春期独特の子どもの気持ちへの配慮を考えていくことが必要となるので、図書館のノウハウを学校図書館との連携の中で伝えていくべきである。
- 事務局：特に、中学校はカリキュラムがかなりタイトであるが、本を読みたいという子どもたちを育てたいという願いはある。しかし、実際は、休み時間は移動や準備に費やされ、放課後は、クラブ活動、テストや受験に向けての勉強等でかなり忙しい状況にある。子ども読書活動推進計画を改正する際には、中学生の生活実態を委員に提示し、ご意見をいただきながら進めていきたい。

②龍華図書館の事業実績及び計画

委員：平成30年度より2期目となるが、新たな指定管理期間に入るにあたって、昨年度からの追加や変更点はどこか。

事務局：館内に生木のシンボルツリーの設置、P3電子図書館サービスの導入を新たに提案し、P4からの行事名の後ろに星印を付けているものが新規行事であるためご参照いただきたい。

委員：利用者としての感想だが、ヤングアダルトサービスを一生懸命されている。中学校が近いという立地条件の良さを活かし、もっともっと頑張っていたきたい。おはなし会のメンバーも依頼があれば協力していく。また、龍華図書館では、おはなし会に、ポイントサービスを導入されたが、参加者は増えたか。

事務局：今年度4月よりポイントサービスを導入し、想定以上の参加者数となった。子どもには、ポイントやシールを集めるといった手法が、有効であると感じた。

委員：おはなし会の後に子どもたちは、龍華図書館のマスコットである「りゅうと」のシールを見せに来てくれる。読書通帳も同様であるが、子どもは、貯めていくのが好きだと実感している。

委員：事業報告の写真で見ると地域が盛り上がっているように感じるが、実際効果はあったのか。

事務局：イベントにはたくさん参加していただいているが、コミュニティセンターで行うことが多く、行事だけ参加し、図書館には入館されずに帰られる方もおられ、図書館利用者に全てが繋がっていないことがもどかしく感じている。新たな利用者に来ていただけるようなイベントを実施できるよう努めている。

委員：平成29年度事業報告書P10からのスタッフ研修は注目度があり、龍華図書館スタッフの育成には力を入れていると思うが、スタッフの定着度はどうなっているのか。

事務局：初年度から1、2年間は入れ替えがあったが、ここ2年は育児休業以外の人員の入替はなく、定着している。経験に応じた研修を行っていることも要因にある。

委員：2期目は、1期目とスタッフ数は同じか。

事務局：平成29年度と平成30年度では、1名増となっているが、育児休業スタッフの代わりに勤務しているため、業務人数としては1期目と2期目の変更はない。

委員：資料3のP14地域資料のデジタルアーカイブ化を自主事業として挙げているが、デジタル画像の著作権や帰属先はどこになるか。自主事業に挙げているということは、指定管理料の中で行っていることなので、3期目に指定管理者が変わった場合はどうなるのか。

また、龍華図書館は他の3館よりSNSを活用するなど独自で行っている取り組みについての資料を出していただきたい。

事務局：デジタル化したデータは八尾市に帰属する。ADEAC（デジタルアーカイブシステム）の管理料は毎月発生しており、現在は指定管理料で支払っているのではなく、株式会社 図書館流通センターで費用負担している。もし、指定管理者が変わった場合は、ADEACの費用を負担することで継続して運用可能である。

③数字で見る八尾市の図書館

委員：資料を見るとすごく頑張っている。ただ、違った見方も必要である。先ほど、龍華図書館における電子サービスのデジタルアーカイブ以外の内容はどのようなものか。WEB予約が過半数を占めるなど、電子化が進んでいることから評価方法も変えていくべきではないか。

龍華図書館では、独自でさまざまなサービスを展開しているが、評価をする際には、龍華図書館のサービスを中心に見たときに他の3館はどうかという評価方法もしていくべきである。龍華図書館が独自でやっていること、他の図書館に合わせてやっていることがあるが、今後、どのように展開すべきかが問題の1つである。電子図書館サービスを始めると、先ほどの中学生へのサービスも違った面で検討できるのではないか。これまでの視点だけで評価せず、他の情報を提供する機関から見た図書館はどうかという視点に変えていかないと本当の評価にならないのではないか。

委員：昨年の協議会の記録で、レファレンスについての発言があったが、この資料ではレファレンスのことが見えてこない。我々は市民に見える形で評価していきたいので、数値だけではない方法を考えていきたい。

事務局：レファレンスの重要性は認識しており、市民から声掛けしやすい図書館を目指している。

委員：例えば、府立のレファレンス研修に参加されている等の具体的な実績が見えるとわかりやすくなる。

事務局：どういう評価資料が効果的に第三者に図書館の活動実績を認識していただけるかというご指摘だと思う。活動そのものをどのように見える化するか、委員の皆さんからのご意見などもいただきながら検討、改善していきたい。

委員：レファレンスという言葉が市民はほとんど知らない。図書館は気軽に相談できるということが市民に伝わればいい。

八尾市の行政の中で、図書館は本の貸出だけという認識にならないように、いろいろな業務を専門の司書が行っているということを外部へ発信していくべきである。

委員：P7 予約件数が貸出に占める割合で、218万点の貸出に対し、予約が8.1%はかなり低い。予約件数が177,188件で、うちWeb予約件数が107,136件であるが、Web予約件数が20万件以上の図書館は多く、八尾市はWeb予約の割合がかなり低い。Web予約の少ない理由を図書館はどう考えているか。予約システムが使いにくい、市民がWeb予約できることを知らないなどの原因があるのではないか。

事務局：利用者は高齢者が多く、Webを活用する方が少ないことが一因となっている。

委員：直接図書館に来て、棚から本を選んで借りていく利用形態が多いということ。今後、Web予約件数を増やす余地はある。

委員：資料1 別紙2 年齢別貸出人数調べの結果にも出ている。29歳までの利用が少ない方々も仕事等により、19時までの開館では、帰りに寄ることができないのではないか。全国的には、Web予約してコンビニや駅前で受け取るというサービスが増えてきており、八尾市はまだ開発の余地がある。

5 報告

(1) 図書館の行事予定（7月～9月）について

委員：志紀図書館の事業で8月30日に「みせるばやお」と共催で行われる。他との共催で行われるのはすごくいいことである。

委員：スタンプラリーを開催するとのことだが、どこの図書館でもスタンプ帳はもらえるのか。

事務局：今日から4館すべてで実施しているのでどの館でもお渡しできる。

委員：昨年事業の八尾図書館移転3周年記念行事で工作屋台村の参加人数が1,060人と多いが1日での参加人数か。

事務局：開催は1日のみ。ただし、ブースごとに参加人数をカウントし、その合計人数である。

4 その他

事務局：次回の図書館協議会は、11月下旬頃の日程で調整させていただきたい。